



春江だより

9月号

令和 7 年 9 月 1 日
江戸川区立春江小学校

平和について考えた夏

校長 小林 麻子

今年の夏は昨年の夏以上に暑い日が続き、生活にもさまざまな暑さによる支障や変化が生じた夏になりました。そのような中、2学期が始まり、子供たちの元気な声と笑顔が学校に戻ってきました。そして、新たな気持ちでスタートする節目として始業式など儀式的な行事を行いました。

暦の中には節目になる日や過去の出来事が風化されないようにするために「～の日」があります。8月15日の「終戦の日」もその一つです。今年の夏で戦後 80 年という節目を迎えたことで、この夏は戦争に関する新聞記事やテレビ番組をよく目にしました。

8月6日に広島で行われた平和記念式典では、2人の小学生の「平和への誓い」が心に響きました。戦争により多くの命が奪われたこと、そのことを直接聞く機会が少なくなっていることを挙げ、「その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。」と自分たちができることは何かを伝えました。そして、「周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。」「私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。」と結んでいました。残念なことに、今、この時も世界では、戦争、紛争が起きています。戦争、紛争が起きたらどんなことが起こるのだろう、多くの人の命が奪われ、日常の穏やかな生活が一変してしまうということをまずはしっかり想像する、一生懸命考える、そして自分事として考えることが「未来を創る」第1歩になると思います。

先日、初めて広島を訪れて原爆ドームと広島平和記念資料館を見学しました。機会がなくなかなか訪れることができませんでしたが、柿の木プロジェクトへの参加がきっかけとなり叶いました。本物を見て事実の重さを改めて感じ、平和への思いを新たにしたところです。

春江小学校では、柿の木プロジェクトに参加し被爆2世の柿の木の苗を育てながら、戦争や平和について話を聞いたり映像を見たりして学んでいます。2学期は、体験談を聞くなど工夫した取り組みをしています。また、子供たちによる柿の木実行委員会を中心に主体的な取り組みを進めています。自分たちが日々の生活の中でできることを見つけ行動すること、共に理解し合い前に進むことを目標に取り組んでいます。

江戸川区は平和都市宣言 30 年を迎えました。郷土資料室や区平和祈念展示室なども活用するなど、ご家庭でも平和について話題にしていいただければと思います。

2学期も本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いします。